
さぬき市の「地域福祉」を考える
アンケート調査

報告書
(福祉委員)

令和 6 年 10 月

さぬき市
さぬき市社会福祉協議会

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	報告書の見方	1
II	調査結果	2
問1	性別	2
問2	年齢	2
問3	担当地区	3
問4	福祉委員以外での地域福祉推進の立場	3
問5	福祉委員を何年勤めているか	4
問6	福祉委員を引き受けた動機	4
問7	福祉に対する住民の関心	5
問8	福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心	5
問9	住民への福祉に関する情報の発信状況	6
問10	住民が福祉に関する情報にふれる方法	6
問11	高齢者が安心して暮らすために必要なこと	7
問12	障がいのある人が安心して暮らすために必要なこと	8
問13	子どもや子育て世帯が安心して暮らすために必要なこと	9
問14	生活困窮世帯への支援として必要なこと	10
問15	担当地区の課題	11
問16	担当地区で見守り対象としている人・世帯の有無	12
問17	災害時に支援が必要な人に対する日常的支援	13
問18	災害時に住民が支え合う地域づくりに必要なこと	14

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年度（2024）に策定する「さぬき市第5期地域福祉計画・さぬき市第5期地域福祉活動計画」の基礎資料として、地域のことや福祉について、福祉委員の目線から市民のニーズや地区の状況を把握することを目的に実施しました。

2 調査概要

調査地域	さぬき市全域
調査対象者	市内の福祉委員
調査時期	令和6年7月下旬～令和6年8月中旬
調査方法	各地区研修会開催時に依頼、研修会終了後に回収
配布数	291件
回収率	78.7%（229件）

3 報告書の見方

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・グラフ及び表中のn（number of case）は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を現しています。

II 調査結果

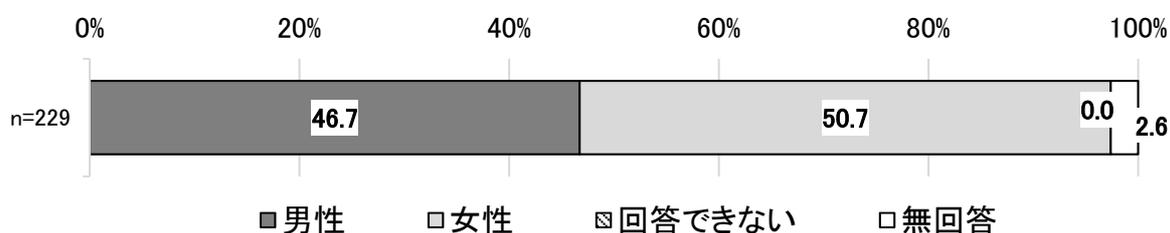
I. あなたご自身についておたずねします。

問1 回答者の性別

(1つに〇)

性別についてみると、「男性」46.7%、「女性」50.7%となっています。

【全体】単数回答

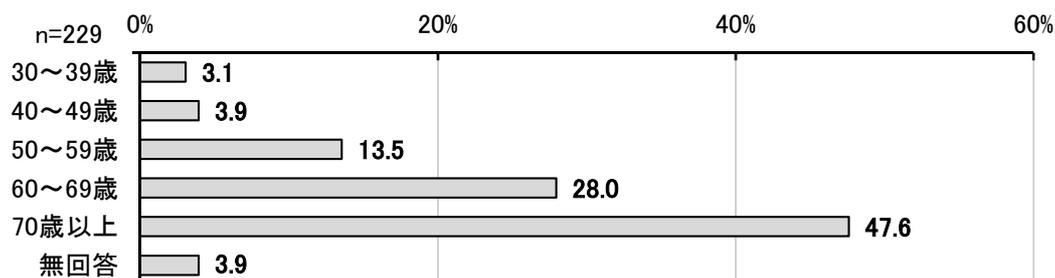


問2 回答者の年齢

(1つに〇)

年齢についてみると、「70歳以上」が47.6%、「60～69歳」が28.0%となっており、これらを合わせた「60歳以上」が75.6%となっています。

【全体】単数回答



問3 回答者の担当地区

(1つに〇)

担当地区についてみると、「志度」が30.6%と最も高く、次いで「長尾」25.3%、「寒川」17.0%、「大川」12.7%、「津田」11.8%となっています。

【全体】単数回答



問4 福祉委員以外で地域福祉推進の立場がありますか。

(自由記述)

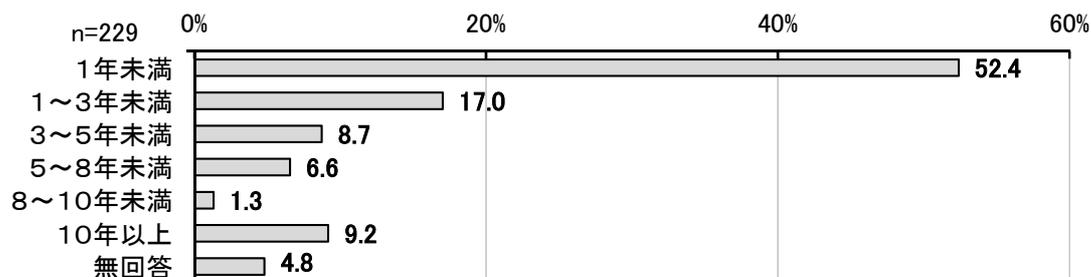
- ・自治会長等の自治会役員 (15件)
- ・民生委員 (7件)
- ・サロン代表
- ・いきいきサロン
- ・地域福祉委員
- ・見守りの会委員
- ・いきいきネット
- ・集会所 副会長(辞退する予定)
- ・ふれあい会
- ・地域見守りたい

問5 あなたは、福祉委員を何年勤めていますか。

(1つに○)

福祉委員の勤続年数についてみると、「1年未満」が52.4%と最も高く、次いで「1～3年未満」17.0%、「10年以上」9.2%などの順になっています。

【全体】複数回答

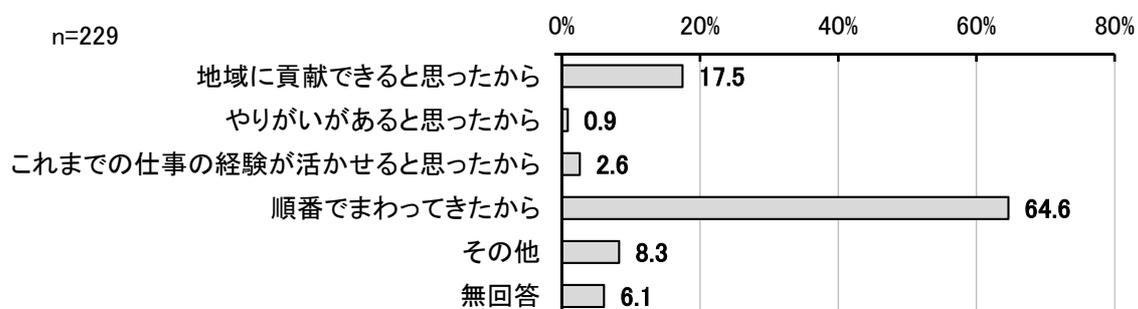


問6 あなたが、福祉委員を引き受けた動機についてお答えください。

(1つに○)

福祉委員を引き受けた動機についてみると、「順番でまわってきたから」が64.6%と6割以上を占めています。

【全体】単数回答



Ⅱ. 福祉の状況について

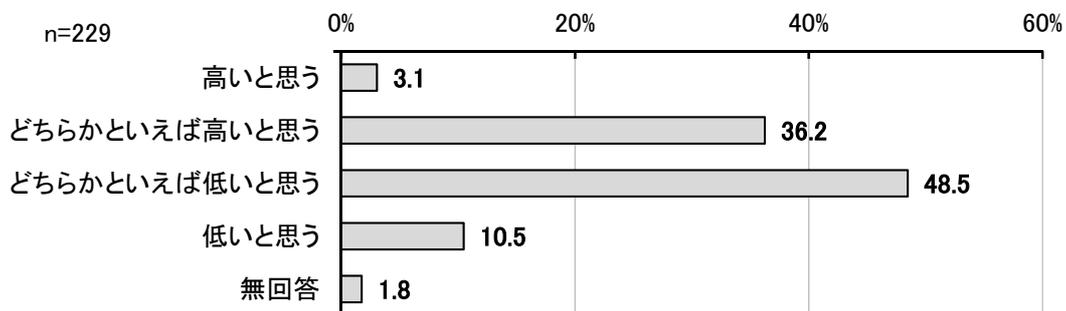
問7 あなたの担当地区では、福祉について住民の関心が高いと思いますか。

(1つに○)

福祉全般に対する住民の関心についてみると、「高いと思う」+「どちらかといえば高いと思う」39.3%、「どちらかといえば低いと思う」+「低いと思う」59.0%と、半数以上の方は福祉について住民の関心は低いと考えられています。

【全体】単数回答

n=229



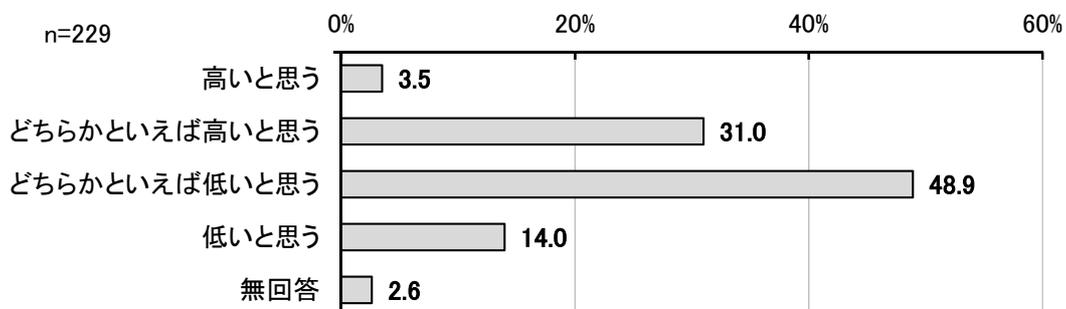
問8 あなたの担当地区では、福祉に関する研修やイベントについて住民の関心が高いと思いますか。

(1つに○)

福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心についてみると、「高いと思う」+「どちらかといえば高いと思う」34.5%、「どちらかといえば低いと思う」+「低いと思う」62.9%と、6割以上の方は福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心は低いと考えられています。

【全体】単数回答

n=229

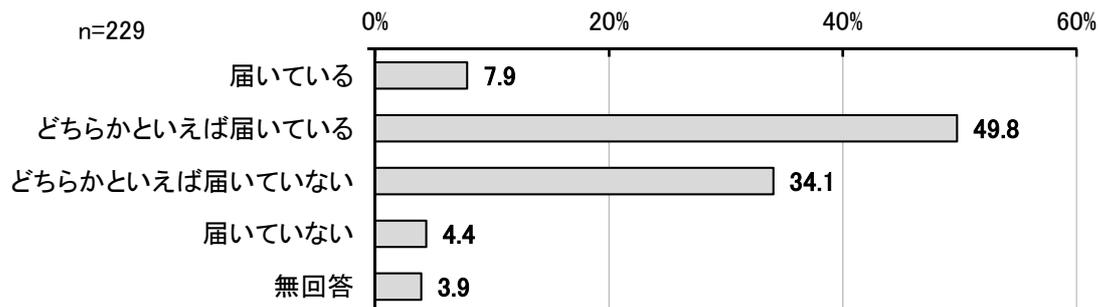


問9 あなたの担当地区では、住民への福祉に関する情報は届いていると思いますか。

(1つに○)

住民への福祉に関する情報の取得についてみると、「届いている」+「どちらかといえば届いている」が57.7%と、半数以上を占めています。一方で、「届いていない」+「どちらかといえば届いていない」が38.5%と4割近くとなっています。

【全体】単数回答

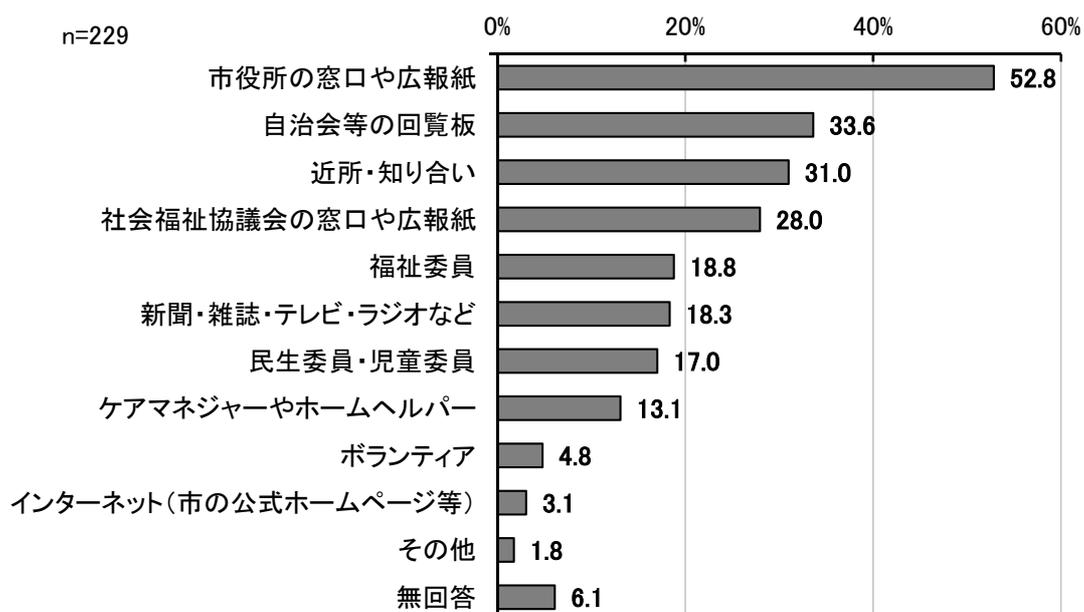


問10 あなたの担当地区で、住民が福祉に関する情報にふれる方法は何だと思えますか。

(○は3つまで)

住民が福祉に関する情報にふれる方法についてみると、「市役所の窓口や広報紙」が52.8%と最も高く、次いで「自治会等の回覧板」33.6%、「近所・知り合い」31.0%などの順になっています。

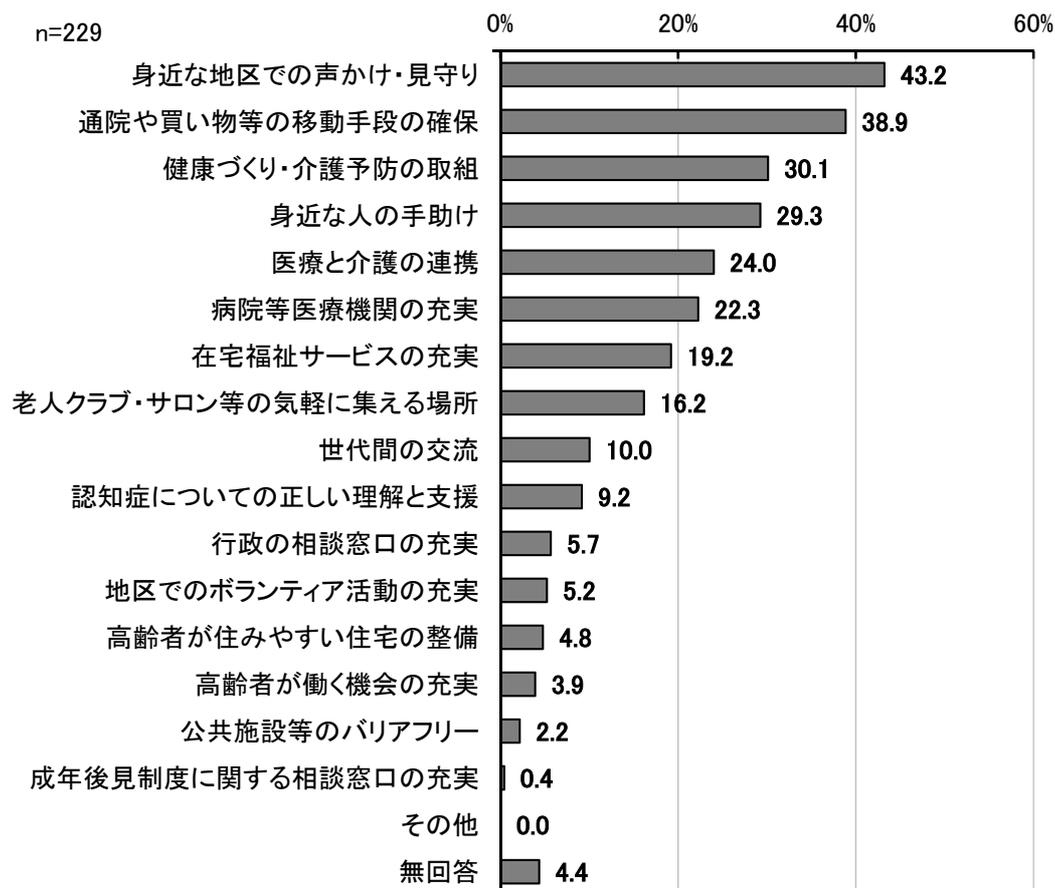
【全体】複数回答



問 11 あなたの担当地区で、高齢者が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

高齢者が安心して暮らすために必要なことについてみると、「身近な地区での声かけ・見守り」が43.2%と最も高く、次いで「通院や買い物等の移動手段の確保」38.9%、「健康づくり・介護予防の取組」30.1%などの順になっています。

【全体】複数回答



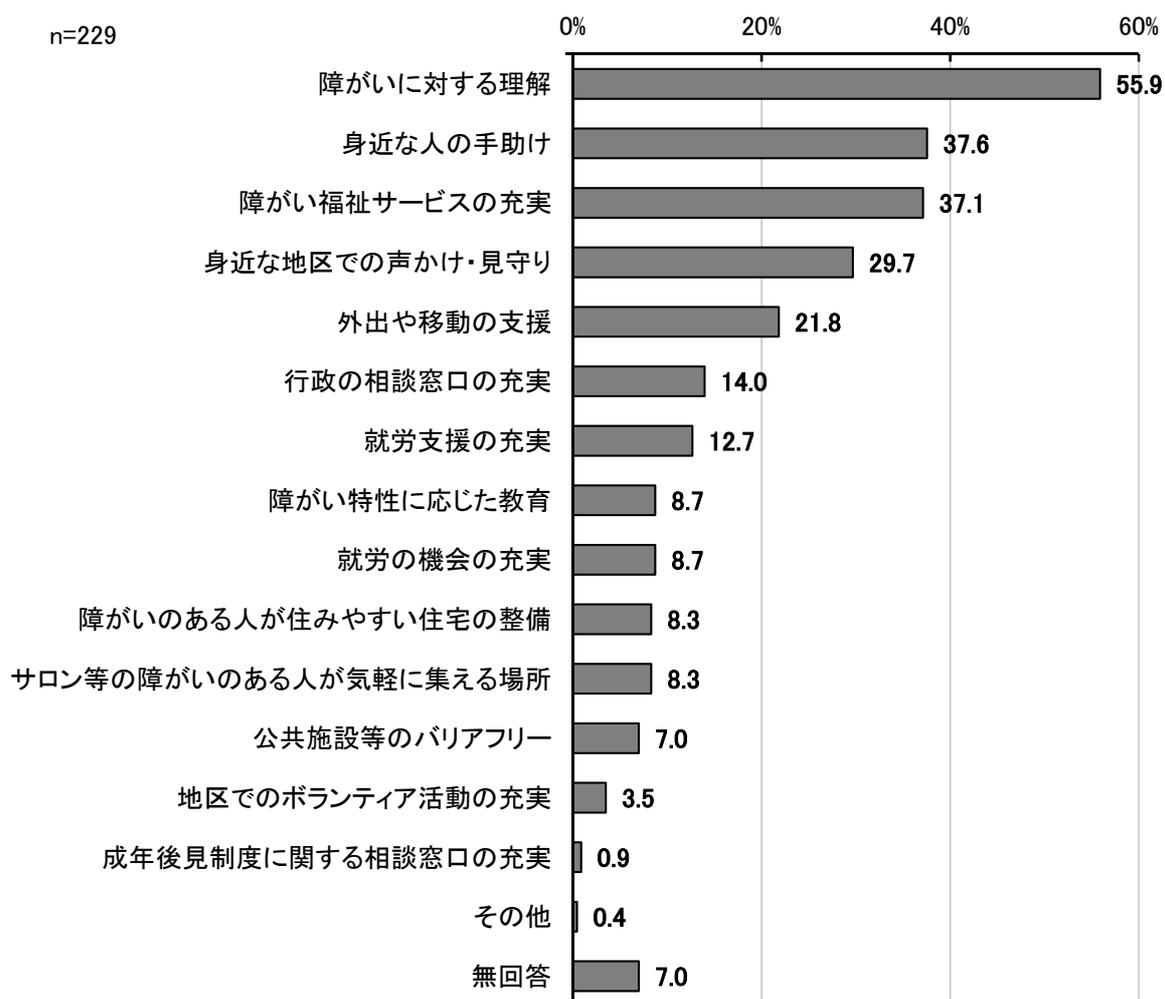
問 12 あなたの担当地区で、障がいのある人が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

障がいのある人が安心して暮らすために必要なことについてみると、「障がいに対する理解」55.9%と最も高く、次いで「身近な人の手助け」37.6%、「障がい福祉サービスの充実」37.1%などの順になっています。

【全体】複数回答

n=229

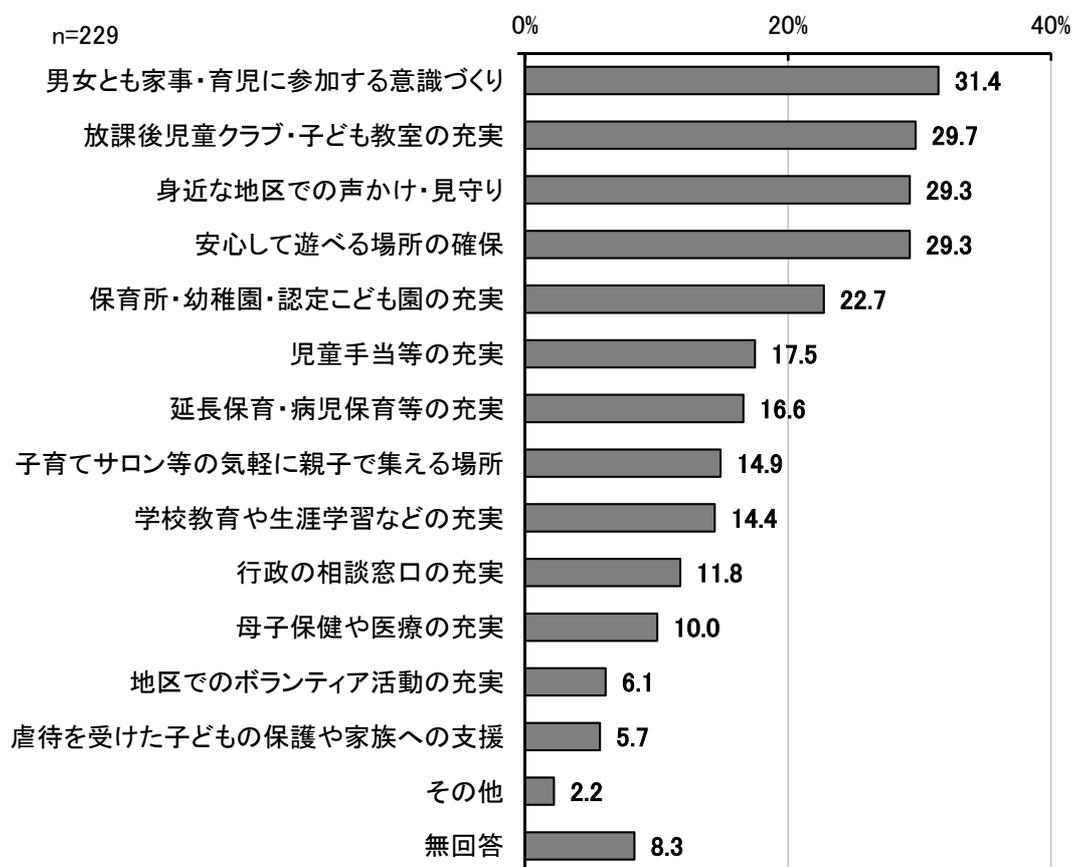


問 13 あなたの担当地区で、子どもや子育て世帯が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

子どもや子育て世帯が安心して暮らすために必要なことについてみると、「男女とも家事・育児に参加する意識づくり」が31.4%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ・子ども教室の充実」が29.7%、「身近な地区での声かけ・見守り」、「安心して遊べる場所の確保」29.3%などの順になっています。

【全体】複数回答

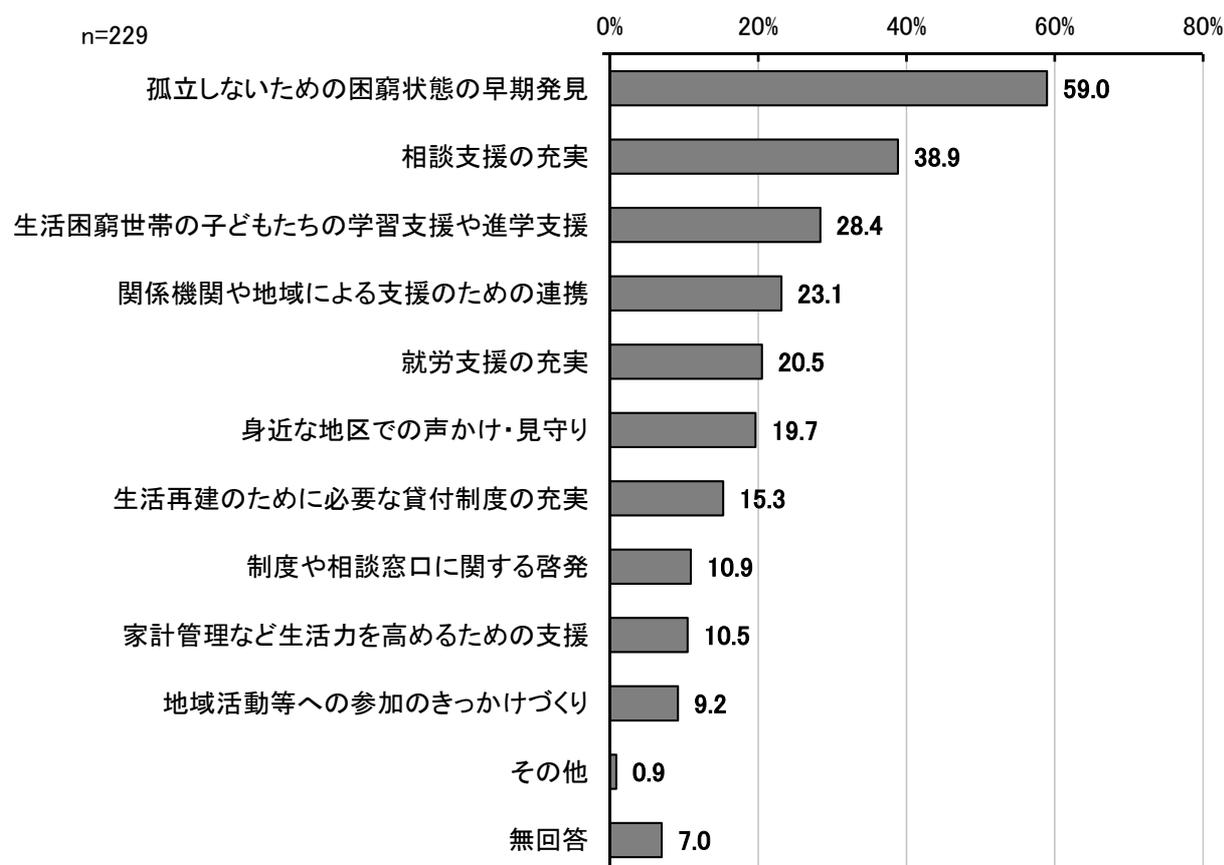


問 14 あなたの担当地区で、生活困窮状態にある世帯への支援として、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

生活困窮状態にある世帯への支援として必要なことについてみると、「孤立しないための困窮状態の早期発見」が59.0%と最も高く、次いで「相談支援の充実」38.9%、「生活困窮世帯の子どもたちの学習支援や進学支援」28.4%などの順になっています。

【全体】複数回答

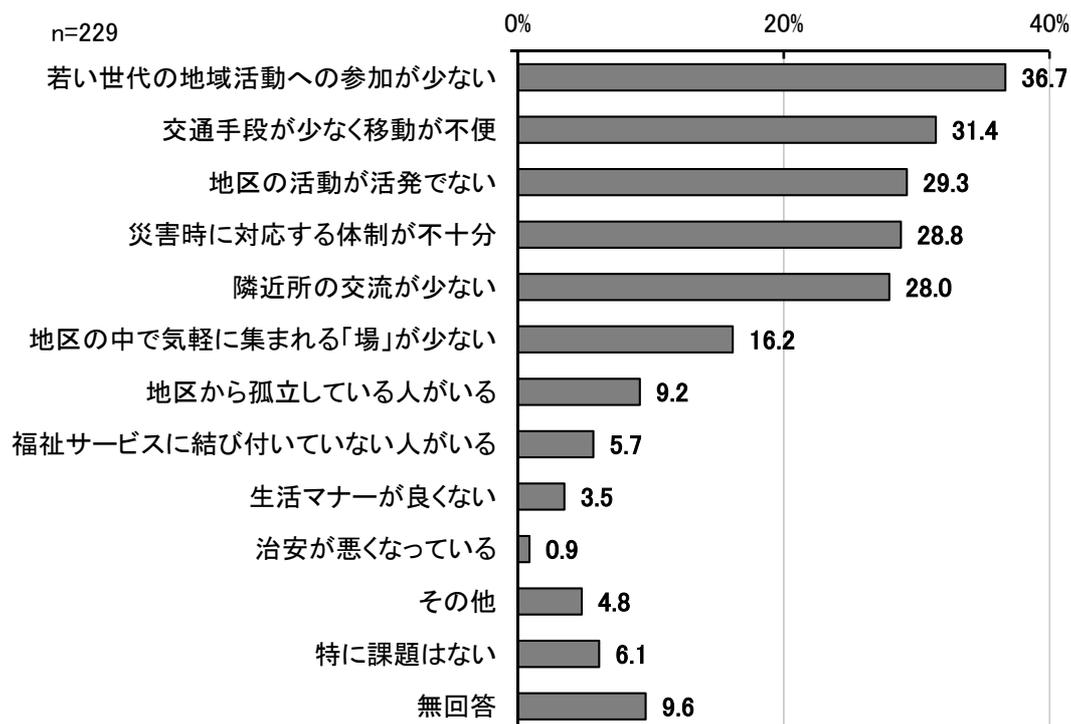


問 15 あなたの担当地区では何が課題だと思いますか、

(〇はいくつでも)

地区の課題についてみると、「若い世代の地域活動への参加が少ない」が 36.7%と最も高く、次いで「交通手段が少なく移動が不便」31.4%、「地区の活動が活発でない」29.3%などの順になっています。また、「特に課題はない」6.1%となっています。

【全体】複数回答

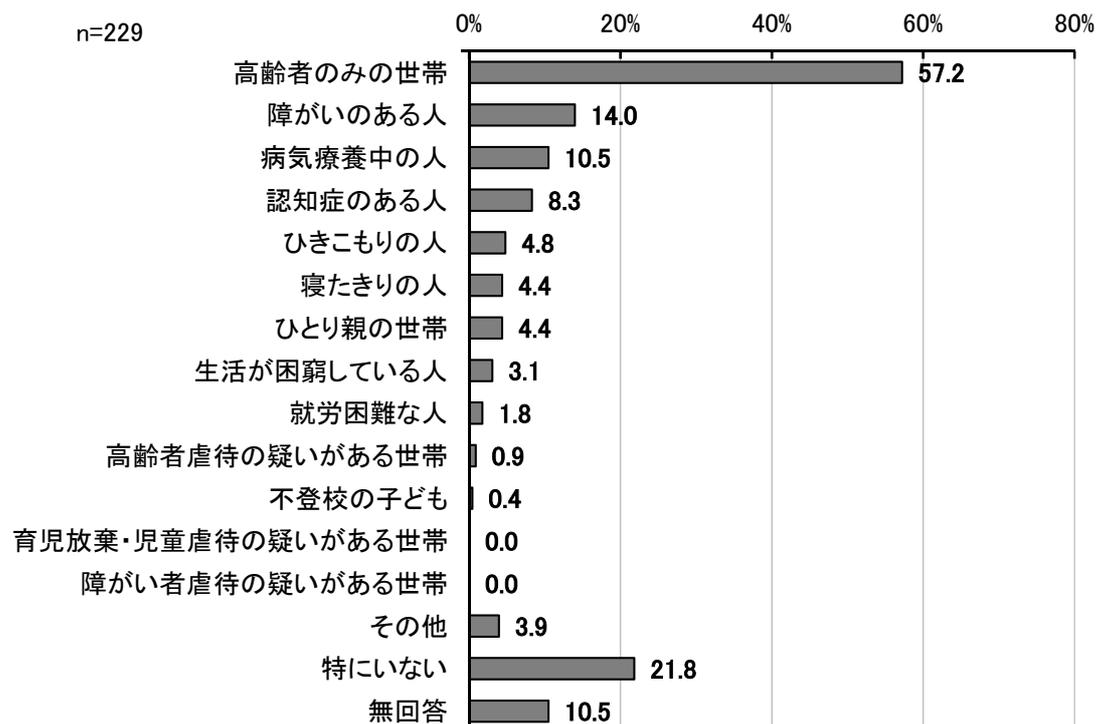


問 16 あなたの担当地区で見守り対象としている方、または、世帯はありますか。

(○はいくつでも)

地区で見守り対象としている方、世帯についてみると、「高齢者のみの世帯」が 57.2%と最も高く、次いで「障がいのある人」14.0%、「病気療養中の人」10.5%などの順になっています。また、「特にいない」21.8%となっています。

【全体】複数回答



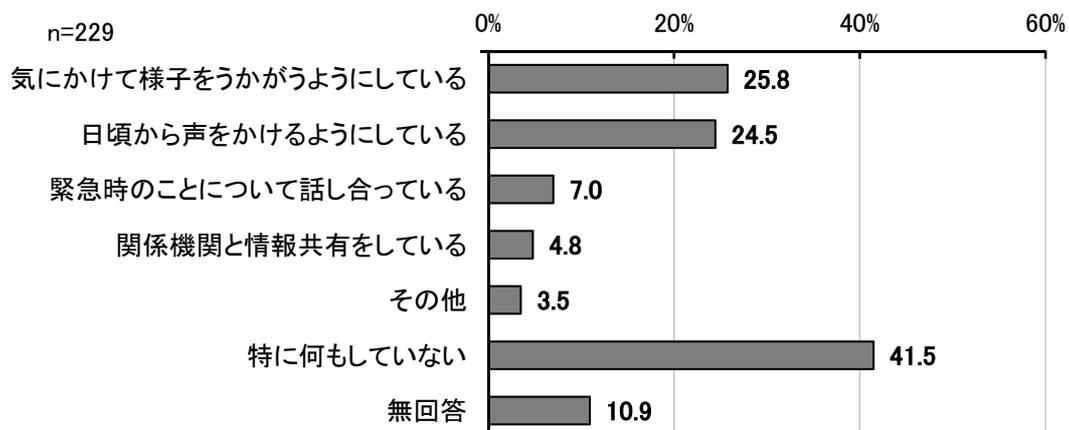
問 17 災害時に支援が必要な人に対して日常的に支援していることはありますか。

(○はいくつでも)

災害時に支援が必要な人に対して日常的に支援していることについてみると、「気にかけて様子をうかがうようにしている」が 25.8%と最も高く、次いで「日頃から声をかけるようにしている」24.5%、「緊急時のことについて話し合っている」7.0%などの順になっています。

また、「特になにもしていない」41.5%となっています。

【全体】複数回答



問 18 災害時に住民が支え合う地域づくりを進めるには、何が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

災害時に住民が支え合う地域づくりの推進に必要なことについてみると、「日頃からの隣近所とのお付き合い」が 68.1%と最も高く、次いで「避難する際に支援が必要な人の把握」42.4%、「地区の危険箇所の把握」27.5%などの順になっています。

【全体】複数回答

